

I 実践

1 研究主題

児童一人一人が互いに思いやり、助け合うことができる児童の育成

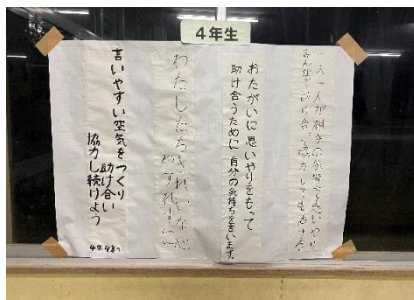
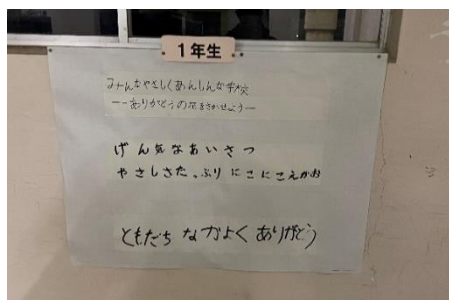
2 主題設定の理由

本校は、「元気に 楽しく 学び合う児童の育成」を教育目標とし、「かしこく・なかよく・たくましく」を三つの柱として教育活動を行っている。また、児童の合い言葉として「命・ドンマイ・ありがとう」を掲げており、児童同士でも「どんまい」や「ありがとう」の声をかけ合う様子が見られる。元気に楽しく学び合うという目標を達成するためには、児童一人一人がお互いの人権を尊重し合い、助け合いながら、より良い学校生活を目指すことで元気に楽しく学校に登校し、学びに打ち込めると考え、本主題を設定した。

3 実践内容

(1) いじめゼロ集会（人権集会）の実施

各学級で「いじめのないクラスにするために自分たちにできること」というテーマで話し合い、スローガンを作成した。学級で作ったスローガンを持ち寄り、リモートでの集会を行った。集会ではスローガンの発表と合わせて、悩みがあるときの対処法を紹介した。各学級で作成したスローガンは集会の翌週に昇降口と教室に掲示をした。



【昇降口掲示】

(2) なかよしタイム（異学年交流）

1・6年生、2・5年生、3・4年生の組み合わせで上級生と下級生と一緒に外遊びをする時間で、本校では継続的に取り組んでいる活動である。上級生は自分たちで遊びを企画して下級生に説明し、遊んでいる。鬼ごっこやだるまさんがころんだなど、さまざまな遊びを楽しんでいた。



【なかよしタイムの様子】

(3) 福祉体験（3年生）

3学年では、総合的な学習の時間で自分たちの住んでいる十王町は、いろいろな人が住んでいて、みんなが助け合って生きているということに気づかせ、共生を図る資質・能力を育成できるよう「みんなにやさしい十王町」というテーマを設定した。障害のある方や高齢者の方の日常生活の大変さを車椅子体験、高齢者体験、アイマスク・白杖体験、点字体験を通して理解を深めた。



【車椅子体験】



【アイマスク・白杖体験】

(4) 職員研修

児童が障害を理由として差別や偏見をしないためには、教師が一人一人の個性を大切にしたい教育について正しい知識をもち、児童に教えていく必要がある。そのために、職員会議の際に特別支援学級担当の教師から、特別支援教育についての研修を行った。障害について基礎的基本的な理解を深める研修や、特別支援学級で実際に使用している教材・教具の紹介などの具体的な支援方法についての研修を行った。

4 成果

- ・ いじめゼロに向けたスローガンを児童が主体となって作成することで、自分にできる活動を見つめ直すことができ、友達を思いやる言葉かけや友達と協力する姿が見られた。また、いじめゼロ集会で発表、スローガンを掲示することで学校全体で一人一人を大切にみんなで力を合わせて取り組もうとする気持ちが高まった。
- ・ なかよしタイムでは、上級生が下級生と一緒にできる遊びを考えたり、やさしく声をかけてあげたり、下級生を思いやって活動する姿が見られた。下級生も上級生と遊べることを楽しみにしていた。
- ・ 福祉体験を通して、普段生活しているだけでは気づかない困難さに気づくことができた。思いやりや助け合いの気持ちをもって、自分たちにできることを考えることができた。
- ・ 職員研修を行うことで、職員同士での共通理解が図れたり、特別支援教育を職員が連携して進めていくことを再確認することができた。支援方法についての研修を通して、支援の手立てについての知識を広げることができた。教師が一人一人の児童を大切にしたい学級経営を行うことで、児童同士が思いやりの気持ちを持ち、仲良く遊ぶ姿が見られた。

II 今後の課題

人権集会や人権に関わる題材を扱った授業では、思いやりの気持ちをもって考えることができた。しかし、そのときだけ考えて終わるのではなく、日常生活で人権について意識したり、実践できるよう人権教育を行っていくことが大切である。今後も継続的に教育活動全体を通して、人権教育の充実を図っていきたい。児童の中には、自分に自信がなかったり、自分を過小評価しているような児童も見られるので、友達や教師、さまざまな人との関わりから、自己肯定感を高めていけるような活動を取り入れ、人権教育に取り組んでいきたい。